

『フィットネスコレクション No.41』

2009年6月1日発行 (株式会社 権人)



美術館かファッションビルを思わせる施設外観

新施設紹介

「水」に特化したアクアフィットネス アクアヴィータ プール&スパ

(愛知県豊橋市)

豊橋スイミングスクールの 老朽化に伴った建て替えで誕生

愛知県豊橋市を拠点とする総合物流企業、豊橋倉庫。同社が豊橋市向山町の眺望に恵まれた向山の高台、約1万4000㎡(4200坪)の敷地に建設するのが、複合商業施設「向山フォレスタ」である。「ライフ」「リビング」「ボディ」「コミュニケーション」の4つのデザインサイトから成り、施設コンセプトは、「ライフスタイルをデザインする」。

グランドオープンが6月1日。4月1日には一足先に、その中核施設である「アクアヴィータ プール&スパ」をオープンさせた。1979年開業、今春で30周年を迎えた「豊橋スイミングスクール」の全面リニューアル(建て替え)だ。こちらの施設のみ同社の直営であり、そのほか「とよはし中日文化センター」、「結婚式場(ハウスウェディング&レストラン)」、「フラワーショップ」、「ビ

ストロ&カフェ」がテナントとして入居する。

アクアヴィータ プール&スパは、鉄骨造り2階建て(2540㎡)の1階に立地。延床面積は約1830㎡。運営は、豊橋倉庫の子会社である豊倉サービス。両社で社長を務める石川誠氏は、同施設の開業の経緯について、以下のように説明する。

「当社(豊橋倉庫)は、1982(昭和57)年に物流拠点をここ向山から三河湾の神野埠頭に移転させ、その後は、主に豊橋スイミングスクールとその駐車場、アピタ向山店(近隣のショッピングセンター)の従業員用駐車場として活用してきました。しかし、企業としての安定的な収入確保を考えると、向山という一等地をいつまでも更地におくわけにはいきません。そこで、豊橋スイミングスクールの老朽化に伴った建て替え事業を契機に、複合商業施設「向山フォレスタ」の計画が浮上したのです」

豊橋スイミングスクールでは子ども対象のスイミングスクール



エントランスには幅3.5mの自動ドアを使用。入ると、すぐフロントがある。フロントスタッフは3施設すべてに対応するシステムになっている

事業に加えて、10年ほど前から成人対象のプールとスタジオを組み合わせた「クラブTSS」をスタートさせ、2本柱で運営していた。今回の建て替えでは、成人対象の施設の名称も含めて、内容を大きく見直したという。

これまで培ってきた 「水＝アクア」に特化した施設

一時は総合フィットネスクラブ、という案もあったそうだ。しかし、豊橋にはこれまでもフィットネス施設の進出が盛んで、市内人口38万人に対して10施設が点在し、同施設の1km圏内には「コナミスポーツクラブ豊橋」と「スポーツクラブ アクトス豊橋」の2施設がある。それらと同じアイテムの施設を作って競合するよりも、これまで培ってきた「水＝アクア」に特化した施設

を作ったほうがいい。そんな考えから誕生したのが、ベビーからお年寄りまで、「水（アクア）」を通して心身ともに元気になれる空間「アクアヴィータ プール&スパ」である。ちなみに「アクアヴィータ（ACQUAVITA）」とは、イタリア語で「生命の水、水の生活」を意味する。

アクアヴィータ プール&スパは、成人対象のアクアフィットネスの「クラブ アクアヴィータ」、子ども対象の「豊橋スイミングスクール」、そして女性専用のサーキットトレーニングジム「ボディキュットと豊橋」の3つの施設で構成される。

1周40mのバーデプールを 県内で初めて導入

以下、施設の概要を紹介しよう。

一番のセールスポイントが、スパとプール、2つのゾーンから成るアクアフィットネス専用の「クラブ アクアヴィータ」だ。プールゾーンのアクティブプール（25m×7レーン）は、ゆとりのレーン幅2m×6レーンに加え、2.5m幅の幼児専用1レーン。

提供するプログラムは「泳法」と、水中で行うアクアピクスなどの「アクアフィットネス」。日本のトップインストラクター、立川規子氏が監修している。注目は、日本初登場となる「アクアジムスティック」である。フィンランド生まれのフィットネスツール、ジムスティックを使った新感覚のエクササイズで、筋トレ効果も高いという。

一方、スパゾーンで特筆すべきは、県内初となる1周40mのバーデプールである。プールという名称だが、泳ぐのではなく、



アクティブプール（25m×7レーン）



ゲルマニウム岩盤浴機能付きのミストサウナ

ウォーキングやストレッチ、マッサージ機能によるリラックス&リフレッシュなどに利用する。その秘密は、体温に近い不感温度（熱くも冷たくも感じない水温約35℃）にあるようだ。バーデプール内のマッサージステーションでは、足裏・ふくらはぎ・太腿・腰用のジェットが噴き出す。この強い水流の特性を利用して血流やリンパ液の流れを促進し、新陳代謝やリラクゼーションを促し、疾病予防や運動能力回復などに効果が期待できる。スパゾーンでのグループエクササイズは、今のところ立川インストラクターによる「ヴィータ・エステ」と「スパ・ヨガ」の2本。今後は会員のニーズを探りながら、新プログラムを導入していく意向だ。

時にはアウトドアで活動 ノルディックウォーキングを提案

このほかの施設では、大型のジャクジーバス、ゲルマニウム岩盤浴機能付きのミストルームなどがある。また、フィンランドで誕生し、10年間で世界約800万人に普及した話題の「ノルディックウォーキング」の体験レッスンも月1回の予定で実施中。今後も緑地に囲まれた立地環境を生かした、開放感あふれるレッスンを検討している。

「体験レッスンでは基本的な技術や楽しみ方を指導します。将来的にはサークルの立ち上げなども考えていますね。アクアフィットネスという館内に限定した活動になりがちですが、時にはアウトドアで気分を変えてみてはどうですか、といった施設からの提案なんです」（石川社長）

営業時間は、平日10時～23時。土・祝日10時～21時。日曜定休。なお、キッズのスクールがあるために、成人会員のプールゾーンの利用は、平日15時から20時30分まで不可（スパ



県内初となる1周40mのバーデプール

ゾーンは終日利用可能）。

料金システムは、入会金5250円、入会手数料3150円。月会費は、レギュラー会員7350円。パパママ会員※、ペア会員、シニア会員は6300円。デイ会員5250円、イブニング会員とナイト会員4200円。プラスして「ボディキュット」のサーキットトレーニングが受けられるゴールド会員は9450円。上記にすっきりマシンの利用を加えたプラチナ会員は10500円。パーソナルレッスン（有料）もある。※スイミングスクールに通っている子どもの親のこと。

目標会員数は、「ボディキュットと豊橋」を含めて1000名。現在の会員層は、7対3で女性会員が多い。平均年齢は50代の前半である。

キッズの付き添いの母親を狙って 「ボディキュット」を設置

豊橋スイミングスクールは従来と同様に、ベビーから選手レッスンまで（6カ月から高校生まで）が対象。現在の会員は1500名ほど。入会金5250円、年会費3150円、月会費は週1



ギャラリースペースには
地元の若手アーティストの作品を展示する



回コースが6300円、週2回8400円。プールは前述のように、クラブ アクアヴィータと時間を区切って兼用している。施設の特徴としては、ギャラリースペースに地元・豊橋の若手アーティストの作品を展示（2カ月交代）していること。これによって美術館のような洒落た雰囲気を出していた。

また、施設のエントランスを入って右手にあるのが、女性専用ジム「ボディキュット」だ。フロントはクラブ アクアヴィータと同じで、人件費の削減を考慮した施設レイアウトになっている。

ボディキュットとは、全国90店舗以上のスポーツクラブを展開している大手スポーツクラブ「ルネサンス」がプロデュースする30分サーキットトレーニングで、8種類の油圧式マシンとステップ台を交互に40秒ずつ、バランス良く行うことにより、シェイプアップやダイエット効果が期待できる。そのほか、施設内には「すっきりマシン」として、骨盤ストレッチマシン「プリムアップ」（3台）、乗馬フィットネス「ジョーバ」、振動エクササイズマシン「ビューティースウェットネス」、アキレスストレッチャー「アキレッチ」（各2台）を装備する。

ボディキュットを付帯させた狙いを石川社長にお聞きした。

「お子さんのスイミングに付いてきたお母さんは、スクールが終わるまで1時間ほど待機しなければなりません。その間に何か提供できるものはないかと考えて、話題の30分サーキットレ

ーニングを企画したのです。ルネサンスさんは開業支援という契約で、運営形態も一定の自由度を持って決められるので、当社にはピッタリでした。まだオープンしたばかりですが、集客は当初の予想以上に好調です」

会員システムは、サーキット会員とすっきりマシン会員の2種類。入会金5250円、入会手数料3150円、月会費は、サーキット会員5250円、サーキット・ママ会員※4200円、すっきりマシン会員3150円、ダブル会員（両方利用可）6300円。※スイミングスクールに通っている子どもの母親。

豊橋スイミングクラブの跡地に 第2期の開発を計画したい

施設取材に訪れた時に驚いたのは、外観、入口付近ともにフィットネス施設とは思えなかったことだ。石川社長はこう語る。

「設計デザインの段階で最もこだわったのは、スイミングクラブには見えない施設外観でした。エントランスには幅3.5mの自動ドアを使っていますが、そんな大きなドアはシティホテルでも希少かもしれません。でも、そのドアを開けて大勢の子どもたちが入っていく、その意外感、アンバランス感を求めたんです」

入口のドアが開くと、大人施設と子供施設のドアに分かれていて、大人のほう（クラブ アクアヴィータ）は美術館に迷い込んだような錯覚に陥る。細部にわたって全体的に女性に好まれる空間づくりといえるはずだ。

では、今後の展望はどうだろう。

「将来的には、現在解体工事中の豊橋スイミングクラブの跡地に、第2期の開発を計画したいと考えています。向山は高台にあり、富裕層も多いエリア。そんな立地環境にあるので、ちょっと山の手気分を味わえる場所として、総合的な見地からプロデュースしていきたいですね。アクアヴィータ プール&スパは、その中心的な施設として、地域の皆様に喜ばれるような施設づくりに努めたいと思います」

完成後の「向山フォレスト」が地域の中でどのような位置を占めるのか、これからの動向が楽しみである。



4月に開催されたノルディックウォーキング体験会の様子